千葉県文化財センター

研　究　紀　要

12

平成２年10月

財団法人 千葉県文化財センター

発　刊　の　辞

財団法人千葉県文化財センターは、昭和49年11月の創立以来、埋蔵文化財に関する数多くの調査・研究・普及活動を実施してまいりました。その成果は、多くの発掘調査報告書等の刊行物に発表しているとおりですが、特に、研究活動につきましては、研究紀要の刊行をはじめとして独自の調査・研究事業を行ってまいりました。

研究事業の中心である研究紀要は昭和62年度からは、第III期計画として「房総における生産遺跡の研究」という主題を選定し〝瓦・玉・須恵器・埴輪〟の4回に分けて調査研究することとしました。これは、県内から出土した資料を収集し、調査・分析してまとめ、その結果を基にして各生産遺跡との関係をとらえ、生産地・製作者と消費地との問題を解明することを目的とするものです。

今回は「瓦」について、当センターが調査した遺跡からの出土資料を中心に県内の出土例を含めて分析検討を行いました。

生産遺跡、古代寺院跡等の調査例が増加しつつある今日「生産遺跡の研究－瓦－」をとりあげたことは、時宜を得たものと考えております。

本書が、考古学の研究はもとより、埋蔵文化財調査の技術向上のための資料として広く活用されることを期待してやみません。

平成2年10月

財団法人 千葉県文化財センター

理事長 岩　瀬　良　三

目　　次

生産遺跡の研究 1
― 瓦 ―

発刊の辞 …… 理事長　岩　瀬　良　三

はじめに …… 3

第1編　上総における瓦生産の一例

―九十九坊廃寺跡出土瓦を中心として― …… 5

I　はじめに …… 11

II　九十九坊廃寺の概要 …… 12

III　九十九坊廃寺跡出土瓦の分類 …… 17

IV　九十九坊廃寺女瓦 I 類の製作技法 …… 40

V　生産組織の検討 …… 45

VI　まとめ …… 52

第2編　「瓦と建物の相剋」試論

―大塚前遺跡出土瓦の分析― …… 165

I　はじめに …… 169

II　施工論の基礎構造 …… 171

III　遺跡像の再構築 …… 175

IV　出土瓦の諸元的要素 …… 181

V　文字瓦の特質 …… 199

VI　施工論の起動 …… 209

VII　宗教環境の基層 …… 218

VIII　まとめ …… 224

生産遺跡の研究 1

― 瓦 ―

はじめに

研究部長　堀　部　昭　夫

当千葉県文化財センター研究部業務の一環に、調査研究に関する成果の公表がある。当初は、県内の埋蔵文化財包蔵地や考古資料出土の所在調査とその目録・基礎データーの作成整理を行うため「考古学からみた房総文化の解明」をテーマとし、昭和50年から5ヵ年計画で調査研究を進めた。その成果は、「千葉県文化財センター研究紀要」として昭和51年度に第1号を刊行し、以後年次刊行してきた。

昭和55年度からはII期目に入り、発掘調査により出土した遺構・遺物の科学的分析による結果を解析する目的のもとに、先土器時代以降、奈良・平安時代に至る各時期を対象として、「自然科学の手法による遺跡・遺物の研究」として学術的研究の課題を模索し、その成果を江湖に問うこととし、研究紀要6号から11号までそれぞれ刊行した。

この間、昭和59年度は当センター設立10周年を迎えたため、研究紀要10号は記念論文集として刊行した。

昭和62年度以降の事業計画の策定に当たっては、発掘調査によって得られた資料を活用することを目的に新たな統一テーマが討議され、県内における生産遺跡について研究を進めることとなった。

房総における生産遺跡については、すでに研究紀要7号で製鉄遺跡、8号で土器の胎土分析等をとりあげて検討を果してきたところである。

一方、昭和62年度からは、千葉県教育委員会の委託を受けて重要遺跡確認調査の一環として「生産遺跡」の調査も開始しており、この資料の活用も十分に図り、12号から15号の4分冊に分けて、瓦・玉・須恵器・埴輪の製作技術とその生産遺跡について調査研究を進めることとし、1分冊目は瓦の研究を実施することとした。

千葉県における古瓦の出土遺跡はおよそ百十余ヵ所を数えるが、そのうち瓦窯跡は15ヵ所であり、残りの大半は寺院跡と集落跡が占めている状況である。また、瓦窯跡についての調査例も少なく、生産活動の実態については十分把握し難い側面をもっている。

したがって、瓦窯跡の研究については資料的に限界があるため、直接的な検討を加えることはせず、寺院跡や集落跡等の消費地における出土瓦の検討をとおして生産体制の実態を究明する手法を執ることとした。

研究対象の遺跡としては、君津市に所在する九十九坊廃寺跡と印旛郡印西町に所在する大塚前遺跡をとりあげることとした。九十九坊廃寺跡については造瓦工程を究明する上で注目できる製作手法が認められる瓦が出土しており、大塚前遺跡は他の古瓦出土遺跡と比較して熨斗瓦の出土が注目できることなどの理由からこの２つの遺跡を選択した。

九十九坊廃寺及び大塚前遺跡の出土瓦を詳細に分析検討することにより、その瓦の生産にたずさわった工人集団の特長はもとより生産地の特定等供給問題に触れることが可能であり、九十九坊廃寺跡出土の瓦については、各瓦の文様、型等を比較研究し、生産技術の面から工人の問題と生産地との関係について具体的な検討をした。

また、印西町大塚前遺跡は、他の寺院跡に比較して熨斗瓦が多く出土しており、熨斗瓦を分析して屋根に葺かれた瓦の総枚数を推定し、その製作にたずさわった工人について究明した。

生産遺跡の研究に包括される分野は広く、かつ細分化されているため、調査・研究に当たっては２ヵ年にわたる事業を計画したが、昭和62年度は課題の設定と調査分析方法の検討、文献調査、県内外の資料調査、分析資料の決定とその実施にあてた。

分析作業は資料が予想より多く、平成元年度に持ち越さざるを得なかった。

平成元年度の後半には資料のとりまとめを行ない、原稿執筆の作業をした。今回の調査研究に当たっては特別に千葉県立房総風土記の丘からは大塚前遺跡の資料を借上させていただいたことをはじめ、関係各位の御理解と御協力に厚くお礼を申し上げるとともにここに記して深く感謝するものである。

奈良国立文化財研究所、千葉県立房総風土記の丘資料館、我孫子市教育委員会、市川市立考古博物館、有吉重蔵、石田守一、上原真人、大上周三、大脇　潔、金井安子、関口廣次、田村晃一、豊巻幸正、松本修自、宮本敬一、山口直樹、山路直充

なお、本書の執筆分担は以下のとおりである。

第１編　永沼律朗

第２編　今泉　潔

千葉県文化財センター研究紀要12

平成２年10月31日　発行

発　行　者　財団法人　千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡無番地
電話　0434（22）８８１１

印　刷　所　有限会社　正　文　社
千葉県千葉市都町２－５－５